

※以下、レグ・メイソン・アセット・マネジメント提供のレポートをご紹介します。



FOMCは雇用判断を引き上げ、量的緩和の終了を決定

- 10月28-29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)は、量的緩和第三弾(QE3)の終了を決定。
- FOMCは労働市場に対する判断を上方修正。声明文では米国経済の「基調的な強さ」への自信を表明。
- 一方、事実上のゼロ金利政策に関しては、「量的緩和終了後も相当な期間の維持が適切」との方針を維持。
- 一時的に軟調に転じた米国株式市場も、足元では好調な企業決算が株高をけん引。

FOMCは雇用判断を引き上げ、QE3の終了を決定

10月28-29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、量的緩和第三弾(QE3)の終了が決定されました。

FOMC声明文では、「資産購入プログラムの開始以降、労働市場の見通しが著しく改善した」と述べられ、労働市場に対する判断が上方修正されました。足元でも、2014年9月の非農業部門雇用者数は前月比24.8万人増と底堅い伸びを示すと同時に、失業率も5.9%と2008年7月以来となる5%台の水準へ低下しています。

欧州景気の低迷などの懸念材料がある中でも、FOMCは米国経済の「基調的な強さ」への自信を表明しました。

FOMCは相当な期間の金利据え置き方針を維持

一方、FOMCは事実上のゼロ金利政策に関して、「量的緩和終了後も相当な期間維持することが適切」との先行き方針を維持しました。

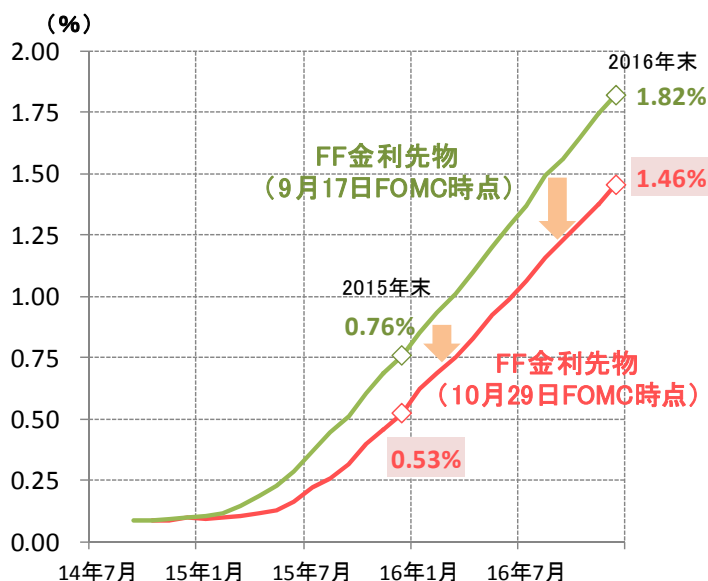
10月29日時点のFF金利先物は2015年末頃の利上げ開始を織り込んでおり、2016年も緩やかな利上げが予想されています(図1)。今後はインフレや雇用情勢を注視しながら、慎重な利上げ判断がなされるとみられます。

良好な企業決算が米国株の回復をけん引

米国株式市場では、量的緩和の終了や欧州景気低迷などの懸念から、9月下旬から10月中旬にかけて株安が進行しました。しかし、足元では、予想以上に堅調な7-9月期の米企業決算を受けて、米国株は回復基調が鮮明となっています。

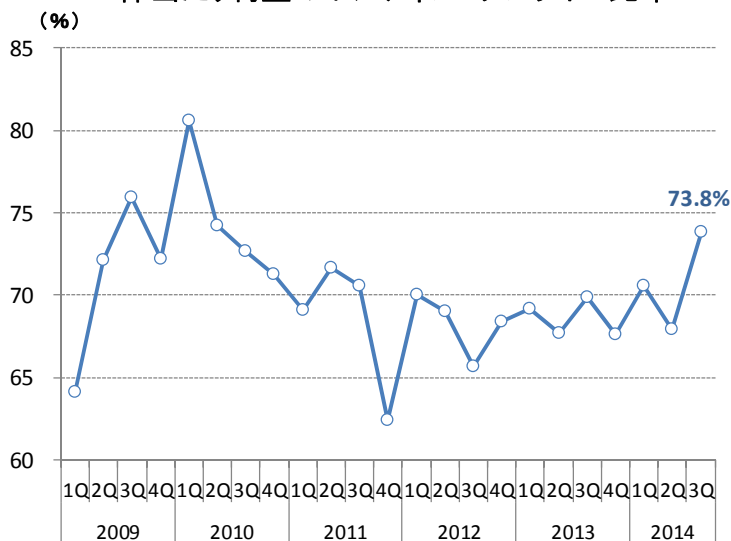
10月29日時点で、S&P500指数採用銘柄のうち302社が7-9月期の決算発表を終えており、このうち7割を超える企業が市場予想を上回る利益を公表しました(図2)。量的緩和の終了が決定される中、今後は企業収益の回復が米国株のけん引役となると期待されます。

図1:FF金利先物が織り込む米利上げ見通し



(出所)ブルームバーグ

図2:S&P500指数採用銘柄の
一株当たり利益のポジティブ・サプライズ比率



(出所)ファクトセット

(注)ポジティブ・サプライズ比率は四半期決算発表を行ったS&P500指数の採用銘柄中、EPSが市場の事前予想を上回った銘柄の比率。2014年7-9月期のみ10月29日時点の302銘柄。

※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【 ご留意事項 】

- 当資料は Legg Mason Asset Management 株式会社の情報を基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。